

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
日常生活援助学演習	2	1	佐藤 晶子	看護師	「看護援助学概論」における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。講義・演習を通して、対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術、活動と休息の援助技術、体温調節の技術、清潔保持の援助技術、食事の援助技術、排泄の援助技術を、健康の保持増進および回復を促すための根拠を理解し、対象者の安全と安楽に考慮して正確に実施できることを目指す。また、日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢について考える。
			上星 浩子	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			萩原 一美	看護師	
			長嶺めぐみ	看護師	
治療援助学演習	2	2	堀込 由紀	看護師	医療現場において治療・処置に伴う看護援助は、安全かつ正確であることが求められる。また、治療・処置を必要とする対象者の身体状況や療養生活・療養行動をアセスメントし、対象者に応じた援助を計画、実施することは看護師が日々実施する主な看護業務である。本科目では与薬管理、呼吸管理、検査・処置時の援助を中心に治療・処置に伴う看護援助を安全かつ正確に提供するために必要な知識と技術及び態度を学び、基本的な診療の補助技術とフィジカルアセスメント技術を習得する。
			上星 浩子	看護師	
			佐藤 晶子	看護師	
			萩原 一美	看護師	
			長嶺めぐみ	看護師	
看護援助学総合演習	1	2	堀込 由紀	看護師	臨床現場では、多くの対象者が検査や輸液療法や酸素療法といった治療を受けながら療養生活を送っている。療養生活を支える看護師は対象者1人1人のニーズを捉え、治療内容や病状を考慮しつつ、感染防御にも配慮しながら日常生活援助を行う必要がある。本科目では、これまでに学んだ知識と技術を統合し、紙上事例を用いて対象者の個別性に合わせた看護援助実施計画の立案・実施について学ぶ。また、治療内容や病状を考慮した日常生活援助を実施できる技術を習得する。
			上星 浩子	看護師	
			佐藤 晶子	看護師	
			萩原 一美	看護師	
			長嶺めぐみ	看護師	
看護過程論演習	1	2	佐藤 晶子	看護師	「看護過程論」の学習内容を踏まえ、対象者の状況に合わせ個別性を考慮した看護過程を展開できるための基本的な能力を習得する。紙上事例の看護過程展開を通し、対象者の状況に合わせた看護過程の具体的な展開方法について学習する。看護援助時における、情報収集、アセスメント、看護診断、看護援助計画立案、評価までの過程を、対象者の状況に合わせ個別性を踏まえて展開できるための基本的な学習を行う。
			上星 浩子	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			萩原 一美	看護師	
			長嶺めぐみ	看護師	
成人看護学演習	1	3	金子 吉美	看護師	成人期に特有の健康問題を有する人の紙上事例を用いた看護過程の展開演習により看護過程展開の力量を強化する。また、成人の健康障害を有する人々の看護活動に必要な基本的技術の実施目的や適応、実施方法について考察し、その技術項目を修習する。場面設定をした演習では、患者の観察の優先順位や観察内容を引き出し、収集したデータのアセスメントが適切にできるよう学習する。その上で、アセスメントに基づいた看護ケアの技術を習得する。
			萩原 英子	看護師	
			堀越 政孝	看護師	
			小池菜穂子	看護師	
			安田 弘子	看護師	
			湯澤 香緒里	看護師	
老年看護学演習	1	3	清水美和子	看護師	これまで学んだ知識と技術をもとに、健康な高齢者を対象とした健康歴の聴取、アセスメントの実際を経験し、高齢者の健康に関する総合的な評価方法を学習する。また、高齢者に特徴的な疾患である骨関節機能障害・循環機能障害・認知機能障害をもつ高齢者の事例展開を通して、アセスメントと看護過程の展開方法を具体的に学習する。さらに、コミュニケーション、活動、摂食、清潔、安全を守る技術等、高齢者への基本的援助技術を、演習を通して習得する。
			星野 泰栄	看護師	
小児看護学演習	2	3	内山かおる	看護師	さまざまな病気や障害などの健康問題を抱えた子どもの看護過程の展開方法と看護援助技術について学ぶことを目的とする。健康を障害された子どもの健康回復と増進のために必要な日常生活援助技術と診療に伴う援助技術などの小児看護に必要な技術を学ぶ。さらに、健康問題を抱えた子どもとその家族の特徴や精神的・身体的・社会的諸問題を理解するために、事例を用いて、情報の整理・アセスメント・看護診断・ケアプランの一連の看護過程の展開方法を学ぶ。
母性看護学演習	1	3	臼井 淳美	看護師	これまでの既習知識に基づき、妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と胎児及び新生児の看護に必要な基本技術（フィジカルアセスメントも含む）を習得する。また、事例を通して妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児及び新生児における看護過程を展開し、必要な看護援助について理解を深める。
			早川 有子	看護師	
			中島久美子	看護師	
精神看護学演習	1	3	西川 薫	看護師	精神（こころ）の健康問題を持つ人に対する看護過程の事例展開を通して、患者－看護師関係の発展方法、対象者のセルフケアの再構築、及びストレス・モデルを活かした看護展開方法を学習する。精神看護の技術としての自己活用、患者－看護師関係の治療的意味と検討方法を理解し、精神看護学における治療的関係性の構築が理解できること、代表的な精神疾患に対する看護が理解できること、精神障害を持つ人のセルフケアの再構築に向けた看護過程の展開が理解できることを目指す。
公衆衛生看護技術演習	1	4	桐生 育恵	保健師	公衆衛生看護活動の方法である健康相談・面接技術、家庭訪問・家族保健指導、健康教育、健康診査、地区組織活動支援について、演習を中心とする学習により基本技術を習得する。実践現場のあらゆる場面でこれらの活動方法を選択・適用し得る判断力・応用力を養うことを目指し、ロールプレイングや地域の実践例を素材とした活動展開の演習を組み合わせ学習する。
			矢島 正栄	保健師	
			小林亜由美	看護師	
			廣田 幸子	保健師	
公衆衛生看護活動展開論	2	4	廣田 幸子	保健師	地域を単位とした健康課題の探求と、課題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を学ぶ。公衆衛生看護活動の展開に用いられる主な理論を理解し、地域の特性と健康課題を捉える方法、活動の優先順位の考え方、健康課題の解決に向けた目的・目標の設定の仕方、目標達成のための手段の選択と活動計画の立案の方法、活動の評価の方法について、講義と演習を通して実践的に学ぶ。
			矢島 正栄	保健師	
			小林亜由美	看護師	
			桐生 育恵	保健師	

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
助産診断技術学演習	2	4	中島久美子	助産師	「周産期診断学」、「妊娠期助産診断技術学」、「分娩期助産診断技術学」、「産褥期助産診断技術学」、「新生児・乳幼児期助産診断技術学」で学んだ理論に基づき、妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児により良い助産を提供するための基礎的実践能力を養う。具体的な助産ケアとして、妊婦健診、分娩第Ⅰ期の産痛緩和と安楽な分娩期の過ごし方、正常分娩の介助、新生児ケア及び乳房ケアの技術を演習により習得する。また、高次の助産診断・技術法を理解し、ハイリスクや緊急時に対応できる技術を演習により学ぶ。
			臼井 淳美	助産師	
基礎看護学実習Ⅰ	1	1	萩原 一美	看護師	本科目では、実習施設の見学を通し、これまでに学習した看護・人間・健康・環境に対する理解を深める。院内見学では、主に病院の機能を支える人々の役割や対象者を取り巻く環境について学び、看護師同行実習では実際の看護援助場面の見学を通して、看護師の役割や看護の在り方について考察する。また、看護職としての専門的態度についても学ぶ。本実習は初めての学外実習となるが、この実習で得た経験を今後、看護学を学ぶ動機付けとする。
			上星 浩子	看護師	
			佐藤 晶子	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			長嶺めぐみ	看護師	
基礎看護学実習Ⅱ	2	2	堀込 由紀	看護師	対象者に必要な援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指し、入院生活をおくる対象者を受け持ち、看護過程を展開する。その中で対象者に必要な看護援助を根拠に基づき、指導者のもとで安全・安楽に実施する。さらに、病棟内で働く他職種との協働活動に参加し、連携の方法を知ることにより、医療チームの一員としての看護職者あるいは看護チームの一員としての看護師のあり方について理解する。
			上星 浩子	看護師	
			佐藤 晶子	看護師	
			萩原 一美	看護師	
			長嶺めぐみ	看護師	
成人看護学慢性期実習	3	3	堀越 政孝	看護師	既習の知識、技術を用いて、慢性期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、看護過程を実践する能力を養う。慢性期、終末期にある患者及び家族の特徴の理解、アセスメント及び計画の立案・実施・評価、患者の心身の苦痛を緩和する援助及び治療・検査時の援助、患者・家族のセルフマネジメント能力獲得の支援方法を習得する。また、看護活動の記録及び報告、医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動する力を培う。
			金子 吉美	看護師	
成人看護学急性期実習	3	3	萩原 英子	看護師	既習の知識、技術を用いて、急性期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、看護過程を実践する能力を養う。周手術期にある患者の特徴、手術によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助の理解、アセスメント及び計画の立案・実施・評価、治療・検査時の援助、急性期にある患者及び家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得するための支援方法を習得する。また、看護活動の記録及び報告、医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動する力を培う。
			小池菜穂子	看護師	
			安田 弘子	看護師	
			湯澤 香緒里	看護師	
老年看護学実習	4	3	清水美和子	看護師	病院及び認知症対応型共同生活介護を提供する施設（グループホーム）において実施する。病院においては、疾病を持つ高齢者を1名受け持ち、指導者のもとで疾患及び患者の個別性を踏まえた健康問題を把握し、既習の知識や技術を統合して看護過程を展開する。また、グループホームにおいては施設のもつ役割と機能、介護職との連携のあり方を理解し、日常生活を送る認知症高齢者の特徴と援助方法を学習する。さらに、高齢者に向き合う自己の姿勢や対象特性と看護について学問的に追求する姿勢を学ぶ。
			星野 泰栄	看護師	
小児看護学実習	2	3	内山かおる	看護師	健康段階の異なる子どもが生活する2つの施設（保育所・小児病棟）で実習を行う。成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子ども自身や家族にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。さらに子どもと家族が、いきいきと生活できるための看護職としての援助の方法を学ぶ。
母性看護学実習	2	3	臼井 淳美	看護師	正常褥婦とその新生児1組を受け持ち、指導のもと個別性を踏まえ、看護の計画・実施・評価の過程を展開する。また、外来（妊婦健康診査・1ヶ月健診）・健康教育（両親学級・ヨガ）や分娩の立会いを通し、妊娠・分娩・産褥・新生児についての経過（身体的・心理的・社会的変化）を理解し、健康保持増進・苦痛緩和のための援助方法と保健指導の重要性を学ぶ。
			早川 有子	看護師	
			中島久美子	看護師	
精神看護学実習	2	3	西川 薫	看護師	精神科開放病棟において、入院患者1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。指導者のもとで、既習の知識を統合して、精神の健康障害がセルフケアに及ぼす影響を把握し、セルフケア行動がとれるよう援助する方法を考え、実践し評価する。実習を通して精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された個人とその家族の理解を深め、自己の内面的変化を洞察し、自己理解や看護観を深める。また、患者との適切な援助関係を結ぶための看護師としてのコミュニケーション技術について考える。
在宅看護学実習	2	4	山野えり子	看護師	訪問看護ステーションでの実習を通して、地域で生活しながら療養する対象と家族に対する具体的な看護の実践方法を学ぶ。また、地域ケアシステムの中での関係機関・関係職種との連携方法を理解する。さらに、在宅療養者と家族の生活にふれ、訪問看護の実際に参加することで、地域における訪問看護の役割と責任について考える。
			反町 真由	看護師	
総合実習	2	4	上星 浩子	看護師	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。複数の患者に対し、その特性や状況にあわせた計画的・継続的看護を提供する方法を学ぶ。また、看護の質保障と安全管理のためのケア提供システム、看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）について、実習指導者と行動を共にする方法により体験を通して学び、理解を深める。さらに、これらの活動を通して学生自身が見いだした課題について探索的に学ぶことにより、看護専門職としての価値と専門性を発展させていく姿勢を養う。

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
公衆衛生看護学実習	5	4	小林亜由美	看護師	保健所とその管内市町村における保健活動の実際を体験することにより、保健サービスの対象である地域住民の健康と生活に対する理解を深め、対象の特性に応じた地域保健活動の展開方法を学ぶとともに、地域で活動する看護職の役割と今後の地域保健活動のあり方について展望する。また、産業保健領域の保健活動に触れ、作業環境管理、作業管理、健康管理の実際を学ぶ。さらに、学校保健活動から、養護教諭の役割、学校と地域の連携による児童・生徒の健康管理の方法について学ぶ。
			矢島 正栄	保健師	
			廣田 幸子	保健師	
			桐生 育恵	保健師	
助産学実習	11	4	中島久美子	助産師	10例を受け持ち、正常分娩介助を通して助産過程の展開をする。このうち1例については、妊娠中期から分娩期、生後1カ月までを受け持ち、母子の継続的な健康管理・ケアを行う。また、ハイリスクの妊・産・褥婦及び新生児のいずれか1例を受け持ち、ハイリスクにあるケースの助産診断・技術を習得する。さらに、助産所、市町村保健センター等の実習により地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を学ぶ。そして、助産管理の初歩的実践能力を養い、これまで習得した助産学の知識・技術を統合して助産の実践能力を高める。
			早川 有子	助産師	
			臼井 淳美	助産師	
合計単位数	56				

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2020年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
臨床推論演習	1	3	鈴木 学	理学療法士	効果的な理学療法の実施には的確な理学療法評価が前提となる。具体的には、基礎的な患者情報などから適切な検査・測定項目を選択し、正確な検査・測定を行う。その結果と情報を既存の知識を基に解釈し、その上で障害構造を分析して新しい判断（理学療法診断、すなわち合理的な目標設定、治療手段の選択など）を行うことを学ぶ。本科目では、演習を通じてこの臨床推論過程を学び、学生個々のメタ認知を涵養する。
			中 徹	理学療法士	
理学療法評価学演習	1	2	黒川 望	理学療法士	効果的な理学療法の前提は的確な理学療法評価である。演習を通じて、検査・測定項目を適切に選択し、基礎的な検査・測定を行い、検査・測定結果に基づいて理学療法対象者の障害構造を分析する力量を培う。主に、形態、関節運動、筋力の測定方法について学ぶ。体格、四肢長、四肢周径の計り方とその評価方法、関節角度計を用いた関節可動域検査法、徒手筋力検査法、筋力検査機器による測定方法について具体的に学び、実施できるようにする。
			中 徹	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			北村 達夫	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
運動器系理学療法評価・治療学演習 I	1	2	城下 貴司	理学療法士	運動器系理学療法学の各論に関し、講義と演習を通じ理解する。幅広い運動器系の中から、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ、切断、脊髄損傷、熱傷、骨盤底筋群不全を取り上げ、通常の座学講義に加え、一部PBLデモンストレーションとしての演習を通じ、理学療法士としての対応方法を学ぶ。また、運動器系疾患・障害の特異的検査・測定方法については、実技演習を導入し、実施できるようにする。
運動器系理学療法評価・治療学演習 II	1	3	城下 貴司	理学療法士	運動器系理学療法の臨床活動に科学的根拠を与えるための理論体系を構築することを目的に、専門基礎科目で学んだ知識を理学療法の視点から再構築する。問題基盤型学習（problem based learning、PBL）を通じ、諸科学の中から理学療法の科学的根拠を裏付ける理論を抽出し、統合と再配置により、理学療法の理論的パラダイムを考察する。さらに、国内外の専門雑誌を検索し、理学療法の効果を検証する。また、既存の理論で説明が困難な諸問題については、今後どのような学問領域のどのような知識が必要になるかを考える。
神経系理学療法評価・治療学演習 I	1	2	鈴木 学	理学療法士	脳梗塞・脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病・脊髄小脳変性症などの変性疾患、脳性麻痺など各種神経疾患の症状と、それに伴う障害についての知識を習得するとともに、各疾患・障害に対する理学療法、特に運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法について学習する。さらに、各疾患における重要なリスク管理方法や理学療法の効果判定についての考え方を学ぶ。
神経系理学療法評価・治療学演習 II	1	3	鈴木 学	理学療法士	「神経系理学療法評価・治療学」、「神経系理学療法評価・治療学演習 I」で学んだ治療体系について技術面の演習を行う。具体的には脳血管障害の急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得、進行性神経難病の進行段階に合わせた理学療法を実施できる能力の習得を目指す。評価から効果判定まで系統的な理学療法ができるよう演習を行う。
呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習	1	3	木村 朗	理学療法士	呼吸・循環・代謝系理学療法の臨床活動に科学的根拠を与えるための理論体系を構築することを目的に、専門基礎科目で学んだ知識を理学療法の視点から再構築する。問題基盤型学習（problem based learning、PBL）を通じ、諸科学の中から理学療法の科学的根拠を裏付ける理論を抽出し、統合と再配置により、理学療法の理論的パラダイムを考察する。さらに、国内外の専門雑誌を検索し、理学療法の効果を検証する。また、既存の理論で説明が困難な諸問題については、今後どのような学問領域のどのような知識が必要になるかを考える。
物理療法学演習	1	3	目黒 力	理学療法士	「物理療法学」で学習した基礎的知識をもとに、実際の方法を学ぶ。安全且つ適切、迅速に実践できること、ケースに対してインフォームドコンセントを確実に実行できるようにすることを目標とする。各種測定機器を用いて各自物理療法による生理学的変化を測定・分析することを通じて、疾患に応じて適切な物理療法を適用する力を養う。
			黒川 望	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
日常生活活動学演習	1	2	浅田 春美	理学療法士	「日常生活活動学」で学んだ起居・移動、食事、排泄、入浴、更衣、整容など生活の基本動作について、疾患、障害別の分析・評価及び練習・指導方法を学ぶ。具体的には、脳血管障害、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、大腿骨頸部骨折、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの疾患それぞれ特有な障害に対し、歩行補助具、車椅子、自助具、コミュニケーション装置の使用法を含めた日常生活へのアプローチの技術を演習を通じて学ぶ。
			中 徹	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
地域理学療法学演習	1	3	岡崎 大資	理学療法士	地域理学療法に従事する理学療法士が熟知しておくべき法制度について学ぶとともに、法制度に基づく分野での理学療法の目的、現況等を、各法制度の目的や方法、制定に至った歴史的背景、具体的事例等を通して学習する。また、地域在住の高齢者を対象とする地域理学療法について、見学・体験実習を実施することで、医療的視点に加え生活に対する視点を持つとともに、地域における理学療法士に期待される役割について考察する。
見学実習	1	2	浅田 春美	理学療法士	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院・施設での見学実習を通じて、理学療法の業務全般を体験して学ぶ。具体的には、理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法、リハビリテーションでの位置づけ等を実体験する。
			鈴木 学	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			北村 達夫	理学療法士	

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2020年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
評価学実習	3	3	橋口 優	理学療法士	学内で学んだ理学療法の評価法の知識・技術を中心に病院・施設で実習する。理学療法の対象疾患である中枢神経疾患、整形外科疾患等の医療面接法、各種検査・測定、記録法等について、臨床実習指導者の下で実体験する。
			中 徹	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			北村 達夫	理学療法士	
総合臨床実習Ⅰ	7	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。とりわけ、治療プログラムの作成までを重視する。
			中 徹	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			北村 達夫	理学療法士	
総合臨床実習Ⅱ	7	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。
			中 徹	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			北村 達夫	理学療法士	
合計単位数	28				

実務経験のある教員による授業科目一覧【検査技術学科】

2020年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
臨床検査解析学 (Reversed CPC) I	1	3	長田 誠	臨床検査技師	検査値から病態を推測し診療支援ができる臨床検査技師育成を目的とする特徴ある教育カリキュラムの1つである。本科目では、病態・疾患と各種検査項目との関連性を学ぶ。具体的には、検査値の個々の異常から病態を列挙し、検査値の組み合わせから病態を推測できるよう理解する。
臨床検査解析学 (Reversed CPC) II	1	3	長田 誠	臨床検査技師	「臨床検査解析学 I」で学んだ様々な病態・疾患と各種検査項目の臨床的意義、及びその関連性をとおして、本科目では実際の症例の検査データをグループ内及びグループ間で討論することにより、患者状態や検査データの解釈を学ぶ。
生理機能画像検査学実習	2	3	古田島伸雄	臨床検査技師	生理機能検査学の講義で学んだ循環器系、呼吸器系、神経・筋系、感覚器系及び画像診断検査について、実際に検査機器を用いて被検者を測定する。これらの検査に必要な検査機器の仕様とメンテナンス、検査を実施するための準備や安全対策及び患者への接し方や患者急変時の対応などを習得する。また、検査データの判読法と基準範囲や正常像について理解を深める。
医用電子工学実習	1	2	木村 博一	臨床検査技師	医用電子工学の内容に基づいて、臨床検査分野における各種計測機器の基本的な測定技術を習得する。実習ではオシロスコープ実験、電圧、電流計による計測、ダイオード・トランジスタ・Ic回路、センサ回路、無線テレメータ等の各種特性を学び、生体情報の収集法及びデータの精度と信頼性の判断や医療機器の故障、安全性に対処できるように、医用電子に関わる計測技術を習得することを目的とする。
臨床検査学総論実習	2	2	高橋 克典	臨床検査技師	臨床検査技師に認められている静脈採血に関して、その手技の習熟と患者への対応について学ぶ。また各種一般検査法の正確な技術の修得とともに、検査成績のもつ臨床的意義を正しく判断できる能力をさらに深める。尿検査に関しては、尿中各種成分の定性・定量試験の正確な技術や、尿沈渣の形態学的特徴のみならず、患者の病態を含む背景から各種尿沈渣成分を正確に鑑別できる能力を修得する。さらに、臨床病態と検査成績との関連性や検査法に影響を及ぼす要因についてもさらに理解を深める。
臨床検査学総合演習 I	3	3	小河原はつ江	臨床検査技師	臨床検査学は、幅広い基礎医学の系統的な学問でもある。4年間の教育において、臨床化学検査、免疫血清検査、血液検査、微生物検査、病理検査の他、生理機能検査、画像検査などの医学検査の相当な分野を修得する。これらの科目の習得は独立しているために科目相互の横断的理解が十分でない。そこで、3年次前期までに履修した専門科目群について科目相互のつながりを理解し、さらに基本的かつ先進的な内容を含む重要事項を整理・習得する。
			藤田 清貴	臨床検査技師	
			亀子 光明	臨床検査技師	
			木村 博一	臨床検査技師	
			古田島伸雄	臨床検査技師	
			高橋 克典	臨床検査技師	
臨床検査学総合演習 II	4	4	亀子 光明	臨床検査技師	臨床検査学総合演習 I で学んだ臨床病態解析検査学、生体機能検査学、検査総合管理学、病因・生体防御検査学、生物化学分析検査学各領域の専門科目群について科目相互の横断的理解を十分にするため、さらに3年次後期から4年次前期までに履修した専門科目群について科目相互のつながり、及び基本的かつ先進的な内容を含む重要事項を整理・習得する。
			藤田 清貴	臨床検査技師	
			小河原はつ江	臨床検査技師	
			木村 博一	臨床検査技師	
			古田島伸雄	臨床検査技師	
			高橋 克典	臨床検査技師	
石垣 宏尚	臨床検査技師				
免疫検査技術学実習	2	3	藤田 清貴	臨床検査技師	免疫検査学で学んだ抗原抗体反応などの免疫血清学の基礎理論、および免疫学的分析法の基礎知識をもとに、各種抗原抗体反応を応用した実習を行い、測定意義、および測定結果の考え方、病態との関連性などについて学ぶ。具体的には、感染症、自己免疫疾患、免疫不全症などの各疾患を診断するための各種免疫検査法について、患者血清等の材料を用いて沈降反応、凝集反応、酵素免疫測定法、間接蛍光抗体法、免疫電気泳動法、イムノプロット等の実習を行う。
微生物検査学実習	2	3	木村 博一	臨床検査技師	滅菌・消毒操作を学び、一般の実験事故に加え感染防御に注意を払う必要性を理解する。細菌・真菌の染色法および染色液の作製、培地の作製法、白金耳、白金線の使用法を学び、微生物検査を実施する上で基本的操作法を習得する。さらに、検査材料から菌を分離し、菌の同定試験ならびに薬剤感受性試験を実施しその一連の菌の鑑別・同定方法を習得する。
臨床化学検査学実習	2	3	亀子 光明	臨床検査技師	臨床検査において、採血への準備から検体が測定者に届くまでの過程を経験し、検体検査の一連のながれを理解できるようにする。また自らの検体を測定して、検体の経時変化、自動化法と手法の比較、同時再現性について学び理解する。実際の測定では、比色法とUV法による終末点法、酵素活性の測定、電気泳動法等を手法で行った後、自動化法を行い、ランダムアクセス機能を理解する。また、小型のドライケミストリー装置にも触れ、緊急検査やベッドサイド検査への有用性についても学習する。
			高橋 克典	臨床検査技師	
遺伝子検査学実習	2	2	長田 誠	臨床検査技師	講義で学んだ知識をもとに、基礎的な遺伝子検査技術を習得する。遺伝子検査法を実習する前に、遺伝子を取り扱う際の基本的な手技及び注意事項(ピペッティング・クーリング・コンタミネーションの防止など)をマスターし、続いてDNA・RNAの抽出及び定量、PCR法とその応用(nested-PCR法、RT-PCR法)、LAMP法、遺伝子多型解析及び塩基配列決定法(シーケンス解析)などの検査技術を習得し、正確で精度の高い結果を医療の現場に提供することを目指す。

実務経験のある教員による授業科目一覧【検査技術学科】

2020年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
血液検査学実習	2	3	小河原はつ江	臨床検査技師	血液検査学で学んだ知識をもとに、血液形態および止血に関する検査手技の習得と、検査法の臨床的意義の理解、基本的手技と診断上の重要性を体得させる。実習では、血液学的検査法および止血・凝固学的検査法のうち、基本となる項目について学ぶ。臨床検査室の現状は、この領域においても自動化測定法がほとんどであるが、基本となる用手法を習得することは必須であり同時に、機器法への理解を深める。また、病院検査室での実践に必要な知識。実践能力を身につける。
生殖医療技術学	2	2	荒木 泰行	胚培養士	生殖医療はヒト両配偶子(精子、卵子)に始まり、受精、受精卵(胚)の発生、着床、妊娠、分娩、老化という全生涯過程に関わるものであるが、特に、生殖医療技術の根幹は、両配偶子の発生、受精および受精卵(胚)発生のメカニズムを基礎学問として学び、ヒト生殖医療に貢献するためには、その学問を臨床に応用すべき実践技術を学ばなければならない。具体的には、両配偶子(精子、卵子)の取り扱い、精液検査(量、運動率、形態評価)、卵子の形態評価と培養法、体外培養技術の実際、顕微授精技術の実際、受精卵(胚)移植の介助等である。
臨地実習	7	4	小河原はつ江 藤田 清貴 亀子 光明 木村 博一 古田島伸雄 高橋 克典 林 由里子	臨床検査技師 臨床検査技師 臨床検査技師 臨床検査技師 臨床検査技師 臨床検査技師 臨床検査技師	臨床検査の現場を実際に経験し、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を経験し、検体採取から結果報告までの一連の業務の流れを認識する。また、臨床に提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、さらには検査研究の重要性を認識するために、疾患に対して興味を持ち、提供する検査情報から病態解析へのアプローチを身につけ、医学・医療の専門職そして医療チームの一員として、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知る。
合計単位数	33				

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
診療放射線学実習直前演習	1	3	小川 清	診療放射線技師	本科目は、実習病院で行う「臨床実習」を履修するにあたり、実習の目的、意義を明確にし、臨床に必要な最低限の知識・技能及び医療人・社会人としての常識を確認することを目的とする。様々な医療行為・医療業務が理解できる能力を培い、自己学習を促進するための学習姿勢を涵養する。具体的には、社会人としての礼儀作法から自職種、他職種の業務内容を理解し、医療専門職としてのコミュニケーション、患者に対する接遇について学ぶ。
診療放射線学総合臨床実習	2	4	小川 清	診療放射線技師	これまで臨床実習で学んできた診療放射線学及び臨床実習の総まとめとして診療放射線技師に必要な臨床実践能力を学ぶ。専門科目で学んだ知識を臨床現場において、主体的に実践することの意義とその方法について学ぶ。また、チーム医療や医療安全など、医療職に求められる臨床能力や、調整等の重要性を学ぶ。具体的には、実習期間中に学んだ諸知識の中から問題点を取り上げ、その問題点を解決する方法について検討し、グループディスカッションを通して、協働の意義を理解する。
診療画像解析学演習	1	3	加藤 英樹	診療放射線技師	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に、診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、画像技術を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
			小池 正行	診療放射線技師	
診療画像解析学実習Ⅰ	1	3	土屋 仁	診療放射線技師	「診療画像解析学Ⅰ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。X線撮影装置は、画像診断機器として最も歴史が長く広く普及している。学内実習室にてX線を発生させ、最適な画像を得るための手法、ポジショニング、画質評価、受診者[患者]への接遇とコミュニケーションを学ぶ。また、X線施設環境の整備、放射線防護の実際、ファントムを用いた撮影実習を通して、臨床実践に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。具体的には、頭部撮影、胸部撮影、腹部撮影、脊椎撮影、四肢撮影など臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。
			小川 清	診療放射線技師	
			小池 正行	診療放射線技師	
			今尾 仁	診療放射線技師	
診療画像解析学実習Ⅱ	1	3	加藤 英樹	診療放射線技師	「診療画像解析学Ⅱ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。「診療画像解析学Ⅱ」で学んだ画像検査の成り立ち、特徴について臨床実践に即した学内実習を通して学ぶ。正常画像と症例を含む臨床画像を提示し、正常画像における解剖学の理解を深める。具体的には、消化管造影検査、X線CT検査、造影X線検査、US検査、超音波検査等の撮影実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。
			小池 正行	診療放射線技師	
			丸山 星	診療放射線技師	
診療画像解析学実習Ⅲ	1	3	菅 和雄	診療放射線技師	「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ画像診断機器について画像処理、診断読影を行う。具体的には、アンギオ装置とその画像、乳房検査装置と画像、診断読影、骨密度検査装置による画像、検査、読影、歯（オルソパン装置）、眼底検査の画像の読み方、読影等、実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。
			谷口 杏奈	診療放射線技師	
			今尾 仁	診療放射線技師	
			丸山 星	診療放射線技師	
診療画像解析学臨床実習Ⅰ	2	4	小川 清	診療放射線技師	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に医療施設において診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、診療画像解析を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
診療画像解析学臨床実習Ⅱ	2	4	小川 清	診療放射線技師	これまで学内で学んできた診療画像解析学の諸科目を基礎として、血管造影、X線CT、MRI、超音波検査、眼底検査に関する各機器の取扱い法や撮影技術、画像評価、データ処理について学ぶ。また、これらの検査は技師と患者との対応だけではないため、医師、看護師、コ・メディカルの連携を知る機会であることを自覚する。
核医学検査技術学演習	1	3	渡邊 浩	診療放射線技師	「核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ」及び「核医学機器工学」等で学んだことを基に総合的に演習を行い、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、SPECT検査の定量性向上を目的とした収集法・画像再構成法・解析法やコンパートメントモデル解析、デコンボリューション解析の概念を学習し、シミュレーション等の演習を行う。
核医学検査技術学実習	1	3	渡邊 浩	診療放射線技師	核医学検査技術学の諸科目で得られた基礎知識により、装置の保守管理・性能試験の実習を通して学習する。性能試験方法は関連する協会・学会・委員会が種々の方法を提案し、規格勧告として公表している。具体的には、画像の処理技術、ガンマカメラについては計数特性、直線性、均一性、分解能、SPECT（コリメータ）については空間分解能、感度不均一性、データ収集法による画質の変化、データ処理法による画質の変化等について学習する。
			丸山 星	診療放射線技師	
核医学検査技術学臨床実習	2	4	渡邊 浩	診療放射線技師	これまで学内で学んできた核医学検査技術学の諸科目などを基礎として、臨床現場における放射性医薬品の取扱い法、診療画像機器の操作・取扱い法、データ処理、RI廃棄物の取扱い手法について学ぶ。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した核医学検査技術学について学習する。また、他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
放射線治療技術学演習	1	3	岩井 譜憲	診療放射線技師	「放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基に総合的に演習し、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、外部放射線治療の計算、小線源の線量計算を中心に、部位別放射線治療方法について実践形式で学ぶ。
			倉石 政彦	診療放射線技師	
放射線治療技術学実習	1	3	倉石 政彦	診療放射線技師	放射線治療に必要な基礎技術の習得を目標とし、標準測定法によるビームデータの収集技術、及び線量計算アルゴリズムを理解する。具体的には高エネルギーX線及び電子線を用いた治療計画の作成、小線源治療の線量計算について学ぶ。照射補助器具の作成、使用方法、矩形照射野の計算手法を習得する。また、モンテカルロシミュレーションの理解、治療計画のQA、QC、患者接遇等について学ぶ。
			岩井 譜憲	診療放射線技師	
放射線治療技術学臨床実習	2	4	倉石 政彦	診療放射線技師	これまで学内で学んできた放射線治療技術の諸科目などを基礎として放射線治療装置の操作、取扱い方法、治療計画の策定、実施、線量測定照射方法について、臨床現場において学ぶ。医療施設において放射線治療の実践を体験することにより、放射線治療の進め方、必要とされる知識及び技術、態度を統合し、放射線治療領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、放射線治療を受ける対象である患者や家族との医療コミュニケーションを通してペイシェント・ケアの実践力を高めるとともに、他の医療専門職との連携について理解する。
			小川 清	診療放射線技師	
			岩井 譜憲	診療放射線技師	
			今尾 仁	診療放射線技師	
医療画像情報学演習	1	3	星野 修平	診療放射線技師	「医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ」で得られた知識を基に、画像処理法を演習を通して理解する。スムージング関数、周波数処理、再構成フィルタ等のコンピュータ画像処理法について学習する。また、画像処理方法と臨床画像の関係について理解する。
			丸山 星	診療放射線技師	
合計単位数	20				

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
医用治療機器学実習	1	3	草間 良昌	臨床工学技士	本科目では、医用治療機器の適切な操作と保守管理を行うことができるよう、医用治療機器の基本事項について学習する。具体的には、電気的治療機器の原理、構造、操作、保守管理、レーザメス及び超音波メスの原理、構造、操作、保守管理について学び、さらに、安全性の維持目的のため、保守点検による実習を行う。ここでいう電気的治療機器とは電気メス、人工ペースメーカー、除細動器、電磁波治療器などである。
			吉岡 淳	臨床工学技士	
			加藤 正太	臨床工学技士	
生体計測装置学実習	1	2	阿部 薫	臨床工学技士	本科目では、臨床現場における様々な場面で使用されている生体計測装置の適性な操作及び保守管理が行えるよう学習する。具体的には、生体変化を電気信号に変換し、生体の微弱信号を大きな信号に変換・解析する。得られた生体信号から特徴ある信号を取り出し、観測者とのインターフェース表示を行う、などの情報収集方法について学ぶ。それにより臨床現場で使用される様々な生体計測装置の適切な操作と保守管理ができることを目的とする。
生体機能代行装置学実習	1	3	芝本 隆	臨床工学技士	本科目では、「生体機能代行装置学Ⅰ」「生体機能代行装置学Ⅱ」で学習した内容について実習を行う。「生体機能代行装置学Ⅰ」についての実習では、代謝系の整理と病態、臨床的意義、種類・原理・構造、流体力学と物質輸送論、血液浄化の物理学、血液浄化技術、周辺医用機器の原理と操作取扱い、患者管理、事故事例と安全対策、新たな技術と機器、保守管理点検技術について学ぶ。また、「生体機能代行装置学Ⅱ」についての実習では、呼吸・循環に関わる生体機能代行装置である人工呼吸器、人工心肺装置、補助循環装置、人工透析装置、の操作法、保守点検、安全管理について学ぶ。
呼吸療法装置学実習	1	3	近土真由美	臨床工学技士	人工呼吸器では気道内圧加圧方式、胸郭外陰圧方式などを、呼吸療法技術では自発呼吸と人工呼吸、生体機能に与える影響、各種換気モードの特徴と臨床的意義、IPPV、CPPV、CPAP、EIP、IMV、SIMV、PSV、IRV、APRV、高頻度換気、吸気酸素濃度測定、酸素濃度計の種類・原理・構造・取扱い、吸気ガスの加湿、加湿器の種類・構造・取扱いなど、人工呼吸器システムの原理、構造、性能、安全性について実習を通して理解する。
体外循環装置学実習	1	3	草間 良昌	臨床工学技士	本科目では、人工心肺装置、補助循環装置と関連機器の原理、構造、仕様について学習する。具体的には、体外循環装置の種類、原理、構造、取扱い、血液ポンプの定常流と拍動流、人工肺、熱交換器、貯留槽、フィルタ、冠灌流回路、血液回収装置、血液物性と流体、体外循環と血液について学ぶ。さらに、血液損傷の機序と臨床的意義や血液希釈の目的と意義について、血流動態、灌流量、血圧と末梢血管抵抗の関係などについて実習を通して理解する。
			加藤 正太	臨床工学技士	
血液浄化療法装置学実習	1	3	近土真由美	臨床工学技士	「血液浄化療法学」で学習した血液浄化装置に関する実習を行う。血液浄化装置として代表的な人工透析装置システム（ダイアライザー、血液回路、透析液、送血ポンプなど）の原理、構造、性能、安全性について、実習を通して理解する。具体的には、透析の原理（拡散、限外濾過、透析膜、膜素材、生体適合性、滅菌法、透析器の形状、仕様、操作条件、性能指標）、患者血液の流れ、透析液の流れ、関連装置・機器、透析液供給装置、患者監視装置、水処理装置、監視項目）について学ぶ。さらに装置側として、透析液温度、透析液圧力、透析液濃度などを実習から学ぶ。
医用機器安全管理学実習	1	2	吉岡 淳	臨床工学技士	本科目では、電気的エネルギー安全限界と許容値、離脱限界電流、心室細動発生電流、マクロショック、マイクロショック、高周波電磁波と皮膚熱傷、人体電撃反応などについて学習する。具体的には、事故事例や事故対応、安全基準と医療機器のクラス分類、保護手段と追加保護手段、医療施設の電気設備安全基準、電気的安全性の測定、医療ガスの安全、医療ガスの種類と危険性、ボンベと取扱いなどである。医療機器の安全基準、規定を背景に測定法に関する概念と安全を確保する技術の基本を実習を通して理解する。
臨床実習Ⅰ	4	3	芝本 隆	臨床工学技士	臨床工学技士として医療現場における基礎的な実践能力を身に付け、医療における臨床工学の重要性を理解する。患者への対応について、臨床現場で実際に学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。実習項目は、血液浄化装置実習、集中治療室・人工呼吸器実習、手術室・人工心肺装置実習、医療機器管理業務実習の4項目とする。
			阿部 薫	臨床工学技士	
			吉岡 淳	臨床工学技士	
			小野 哲治	臨床工学技士	
			近土真由美	臨床工学技士	
			草間 良昌	臨床工学技士	
臨床実習Ⅱ	3	3	芝本 隆	臨床工学技士	臨床工学技士として医療現場における応用的な実践能力を身に付け、医療における臨床工学の重要性を理解する。本科目では、医療の質の維持と向上のため臨床工学技士の守備範囲となる、医療機器の安全使用・適正使用について更に学習する。具体的には、医療現場における医療機器の保守点検及び管理業務を実際の臨床現場で経験することとする。さらに、医療機器システム安全管理、外来、検査室及び入院病室での医療機器活用状況を適宜実習することにより、即戦力を備えた臨床工学技士となることを目的とする。
			阿部 薫	臨床工学技士	
			吉岡 淳	臨床工学技士	
			小野 哲治	臨床工学技士	
			近土真由美	臨床工学技士	
			草間 良昌	臨床工学技士	
合計単位数	14				